

穴生学舎かわら版

第19号
穴生学舎
新聞編集委員会

修学旅行 特集

くまモンのふるさと

熊本紀行



蓮華院誕生寺 世界一の梵鐘「飛龍の鐘」に祈りを捧ぐ
撮影/中川紀文(地域ふれあい)

平成25年11月19日(火)から3便に分かれ、1泊2日の修学旅行が行われた。
今年の行先は熊本。1日目は、パワースポット 蓮華院誕生寺奥之院から三角港へ。天草五橋を渡り、松島観光ホテル岬亭に宿泊。夜は「車海老のおどり」や「板前さん解体実演によるカンパチ」など、海の幸を堪能し、各コースの宴会を楽しんだ。
2日目は、天草四郎メモリアルホールから熊本城へ。水前寺での昼食は、これぞ、ザ・熊本

メニュー「馬肉しゃぶしゃぶ」。好き嫌いの分かれるところではあるが、編集委員はたいへんおいしくいただいた。
三角港ではシトロな洋館が海の青に映え、熊本城では空と城郭と黄葉した銀杏のコントラストがとても美しかった初冬の修学旅行。
熊本県営業部長の「くまモン」とも(お土産品として)各地で巡り合い、各便とも楽しかった2日間を無事、終えた。

そんな今回の修学旅行、全便合わせての参加率は69%であった。実施後のアンケートでも、「よかった」という満足度が約7割を占め、まずまずの結果と言える。アンケートでは、「行先は二の次、来年も参加したい」という意見が多数、寄せられていた。

一方で、コース別の参加率は最高が90%、低いところでは2割に止まった。最終の第5回修学旅行実行委員会(12月15日実施)でも、参加者数アップやリーズナブルな価格が、今後の検討課題として取り上げられた。日帰りにしてはどうか、スポーツ大会や大学祭を通してコースの雰囲気づくりをしておくべき、比較検討しやすいように行先を絞ってコンペをすべき、コンペに招致する業者の枠を広げては、などの建設的な意見が交わされた。

研修生へのアンケートでは、「近場でゆっくりしたい」との意見も複数、見られた。この旅行の目的が「懇親」であることを思い起こさせる回答であった。

修学旅行に参加してみた...

